

初めての参加大歓迎!! 多くの人参加がオウムを追い込んでいく。
解散しないオウムに対して、我々は怒りの声を上げよう!

「分裂したオウムと今後の私たちの闘い」

第15回 抗議デモ・学習会

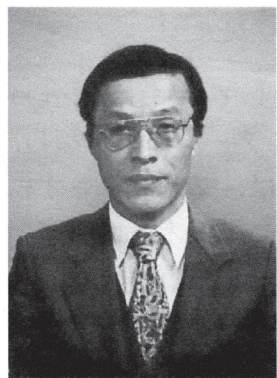
10月13日(土)

- 抗議デモ 2:00集合 2:20出発 烏山区民センター広場
- 学習会 3:00開会 烏山区民センターホール

講演

『分裂したオウムと今後の私たちの闘い』

- アーレフはなぜ分裂をしたのか。アーレフの中でもいくつかの分派がある実態、財政的な事や宗教感など
- アーレフの分裂は住民協議会の7年に亘る活動がどのように影響しているのか
- アーレフ、ひかりの輪の実態、組織の弱体化など
- これからのアーレフ、ひかりの輪に未来はあるのか



講師 滝本太郎氏 (弁護士)

【略歴】1957年、神奈川県大和市に生まれる。早稲田大学法学部を卒業後、神奈川県職員を1年勤めたのち、司法試験合格。1983年から弁護士として活躍。労働、消費者、一般事件に取り組んできた。

1989年、横浜弁護士会の同僚であった坂本堤弁護士一家の殺害事件を契機に、「オウム真理教被害対策弁護団」に加わる。「上九一色村」の問題を担当し、信徒たちとの話し合い活動を重ねるかたわら、マスコミにおいても、信徒たちへの呼びかけを積極的に行なってきた。出家、在家を問わず、マインド・コントロールから逃れようとする全ての人々と親身話し合い、信者およびその家族から信頼を得ている。

1994年5月、自動車の空気吸入口にサリンをかけられる。1995年6月、脱会者の集まり「カナリヤの会」を作り、その窓口。日本脱カルト協会の理事、事務局長として、マインド・コントロールの撲滅に全力を尽している。

著書に「マインド・コントロールから逃れて」恒友出版、「オウムをやめた私たち」カナリヤの会岩波書店、「宗教トラブル110番」民事法研究会、「異議あり、奇跡の詩人」同時代社。

主催：烏山地域オウム真理教（現アレフ）対策住民協議会

共催：世田谷区

金沢オウム真理教対策協議会からの要請

協議会からの要請

7月20日に行われた平成19年度オウム真理教対策関係市町村連絡会総会（参加32市区町村）で、事例発表のため特別参加していた金沢オウム真理教対策協議会が、全国のオウム対策協議会同士の情報交換の場として連絡網を作成するよう呼びかけました。

金沢オウム真理教対策協議会は、平成16年にオウム金沢支部が金沢市内に移住し、北陸の拠点としての活動を始めたのを機に、同年9月に発足し、県議・市議・公安調査庁等にオウム追放を求める署名の提出や、オウム対策強化の請願書を提出するなど活動のほかに、日々の監視や夜間パトロールなど住民密着の活動も実施してきました。平成19年は、オウム解体に向けての法の整備を国に要請する運動、全国のオウム対策協議会間の連絡網を整備する運動を活動の中心としています。

オウム解体に向けた法整備要請に関する運動では、活動の規制や禁止・教団の解体や解散等を可能とする法の整備、公安調査庁等による調査結果提供範囲の一層の拡大、教団に対する警戒警備活動の一層の強化、これらを求める請願書を法務大臣に提出するべく、活発に署名活動を行っています。

今回の呼びかけは、全国のオウム対策協議会間の連絡網を整備する運動の一環で、烏山地域オウム対策住民協議会としては、協議会ニュースでお知らせの通り、従来から他の団体や自治体と連携してきたので、金沢オウム真理教対策協議会の呼びかけに応え、協力してオウムと対峙することにしました。ご理解とご協力をお願いいたします。

監視小屋だより

オウム施設の監視活動は協力していただいている24の団体(町会、自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会)の皆さんが年間のローテーションを組み、毎日教団の動きを監視し、日誌に記録しています。特に今年の夏は猛暑にみまわれ、また、第一サンサンマンションの解体工事による騒音、ほこり等で非常に厳しい活動になったと思われます。以下監視小屋日誌より抜粋しました。

- ・ 故高山氏の子息が残材をかたづけしている。プールも解体し駐車場にし、いろいろ考えているとの事。信者が後片付けを手伝っていた。
- ・ ブルーのシャツ、ジーンズ、紫色のリュックの男性、建物から出てきて駐車場の車の前に立ち、建物を見上げて携帯電話をいじりながら建物内へ入ってゆく。
- ・ 甲州街道より地図を見ながら幹部？かスーツの男性が建物内へ入る。約5分後ワイシャツ姿になって周りを1周する。1時間後荒木幹部と外出した。
- ・ 解体工事のため車両等の出入りが多く危険だった。(関係

機関の話によると6月～8月位まで工事をし、その後駐車場に統一するらしいとのこと)

- ・ ワンボックスの車からビデオテープの入った箱をGSハイム(ひかりの輪が居住)に運び、白いカローラから食品9箱を第2サンサンマンション(アーレフが居住)に運び込んだ。
- ・ 朝からTV局のカメラが入っている。夏の信者達の集会がある模様。大きな花かごが2つ届けられる。(集会用か?)
- ・ アーレフに関係あるかは未確認だが時々工作音(大工音、金属加工音)あり。
- ・ 品川ナンバーの車に糸の入った箱、ミシン、大きな袋物、洋裁道具等を積み女性運転で旧甲州街道へ。(既制服でも作っている感じ)

毎日の日誌内容からは、携帯電話を持っている信者が多い、白髪交じりの年配の信者が目立つ、宅配便での書類、荷物が頻繁に届けられている。等々、現在の教団、信者達の様子を知ることができ、協議会にとって監視活動は非常に大きな力となっています。

住民協議会は「オウム真理教の解散・解体」に向けてこれからも地域住民の皆さんと供に監視活動を続けていく所存です。

学習会アンケートの質問に答えて

Q、どうしたらオウムは解散するのか。

A、地下鉄サリン事件(12名死亡、5500名負傷)を始め、数々のテロ行為を重ねてきたオウム真理教。12年経過した今でも多くの方々が、身体的、精神的な後遺症に苦しんでいます。元教祖、麻原彰晃(本名、松本智津夫)は昨年9月に死刑が確定。実行犯の弟子達も次々に死刑判決がでています。しかし、麻原彰晃もオウム真理教も事件についての反省や、納得のいく謝罪も行っていません。のみならず、オウム真理教はアーレフと名前を変え、今年3月に分裂したひかりの輪共々、依然として活動をしています。

本来であれば、このような団体が生き延びているのがおかしな事で又、不思議な事でもあります。住民協議会は、2001年の結成当時から、「解散・解体」を目標に活動してきました。もし、烏山地域に住民協議会がなかったら、オウムは勝手気ままに活動していた事は明らかです。

一方、7年間をふり返ればオウム真理教も、少しづつ弱体化し矛盾が深まっているようにみえます。3月に分裂し新たに出来た「ひかりの輪」も組織の発展の中から生まれたのではなく、新たな生き残りをかけた設立と考えます。同時に、住民協議会がみなさんと一緒にとり組んだ「観察処分」更新、「団体規制法」存続の署名がオウムの活動を規制、組織を弱体化させる役割を果たしてきました。国がオウム真理教の存在を認めている以上、今すぐ解散させる事は難しいと思います

が、世田谷区と住民協議会との協力関係の一層の強化、オウムに反対する団体との連帯など、ひと回り、ふた回りと活動の輪を広げていく事がオウム真理教の解散につながると考えています。これからも、全力でオウム真理教の解散・解体をめざし、対決して行きますので、より一層のご支援ご協力をお願いいたします。

住民協議会活動やニュースについてのご意見・提案をお寄せください。

あまりにも永い7年間が経過しようとしています。ニュースも年10回発行し、69号になりました。アーレフが分裂し、上祐が「ひかりの輪」を設立した頃までは、マスコミもオウムの事は取り上げていました。しかし、今ではオウム関連の記事をさがすのも難しくなりました。オウムの事に関心のない人であれば見落としてしまいそうな記事が、稀に地方欄に掲載されるくらいです。やがて、世の中の人々の関心がオウムから離れていく事が、とても不安になります。住民協議会ニュースは、そのような時でも、住民のみなさんとのパイプの役割を果たしていきます。

住民協議会の活動は世田谷区民の理解と協力が無ければ続けて行く事は不可能になります。どのような意見や提案でも私達には励みになり勇気が湧いてきます。

お待ちしておりますので、よろしく願いいたします。

文書での送付先は 〒157-0062 世田谷区南烏山6-22-14

烏山総合支所内住民協議会

メールは miyazaki@miyazaki-p.co.jp にお願ひします。

住民協議会活動報告

9月23・24日(日・月) 烏山神社祭礼で募金活動
9月25日(火) 協議会ニュース69号初校正
10月1日(月) 協議会ニュース69号再校正

10月5日(金) 事務局会議
10月8日(月) 「ファンの集い」会場で募金活動
10月8日(月) 協議会ニュース69号全区版発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。